

子宮体癌登録実施要項 2026～

個別報告入力要領

治療患者の登録は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

(1) 子宮体部に原発した癌で、組織学的に確認されたもののみを報告する。治療開始日は、子宮体癌治療を開始した年月日とする。

(2) 子宮頸部と体部に同時に癌が認められ、原発部位を臨床検査あるいは術後組織検査で明確に決定できない場合は、その組織が腺癌であれば子宮体癌に、扁平上皮癌であれば子宮頸癌に分類する。

(3) 子宮体部と卵管・卵巣に同時に癌が認められ、原発部位を決定できない場合は、それぞれに登録する。

(4) 癌肉腫は本登録で報告する。

(5) 診断のみ行い治療を行わなかった症例、試験開腹のみ行いそれ以後に子宮体癌に対する治療をまったく行わなかった症例、診断が最終的に細胞診のみによって下された場合は報告から除外する。

(6) 子宮内膜異型増殖症は、本登録では報告せず「年報」入力画面から、症例数のみを報告する。

【登録コード】

code №

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

【患者No.】

自動表示（EM20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【手術状況】

code №

1	手術施行例
2	手術未施行例
3	術前治療施行例

(1) FIGO、UICCの進行期分類は同じにすること。
 (2) 術前に放射線治療や化学療法を施行した症例は「術前治療施行例」となり、進行期分類（FIGO、TNM）は画像診断を用い、臨床進行期を推定し登録、備考1欄にypTNMとして手術時所見に即してpTNM分類を入力する。

【進行期分類】

1. FIGO分類（日産婦2011、FIGO2008）

code №

10	I期（亜分類不明）
----	-----------

11	IA期
12	IB期
20	II期
30	III期（亜分類不明）
31	IIIA期
32	IIIB期
33	IIIC期（亜分類不明）
34	IIIC1期
35	IIIC2期
40	IV期（亜分類不明）
41	IVA期
42	IVB期

(1) 漿膜、付属器浸潤の場合にIIIA期とし、腹水細胞診陽性は進行期分類には用いない。

2. TNM分類（UICC第8版）

1) T分類

code №

99	TX
00	T0
10	T1（亜分類不明）
11	T1a
12	T1b
20	T2
30	T3（亜分類不明）
31	T3a
32	T3b
40	T4

(1) T0とTXを混同しないこと。

T0：臨床所見より子宮体癌と診断したが、原発巣より組織学的な癌の診断ができないもの（組織学的検索をせずに治療を始めたものを含む）。

TX：組織学的に子宮体癌と診断したが、その進行度の判定が何らかの障害で不能なもの。

(i) 初回手術施行例

a. 付属器転移

code №

1	付属器転移を認めない
2	付属器転移を認める
3	不明

(1) 両側付属器摘出の既往があり、手術時に付属器が存在しなかった場合や部分的にでも卵巣を温存（残存）し、病理学的な検索が不十分であった場合には、総合的に判断してcodeを選択し、備考2欄にその旨入力する。

b. 子宮漿膜浸潤

code №

1	子宮漿膜浸潤を認めない
2	子宮漿膜浸潤を認める
3	不明

子宮体癌登録実施要項 2026～

(1)漿膜の破綻がなくとも筋層をこえて漿膜直下の結合織に達しているものは漿膜浸潤とする。

c.骨盤腹膜播種

code №

1	骨盤腹膜播種を認めない
2	骨盤腹膜播種を認める
3	不明

d.子宮傍組織浸潤

code №

1	子宮傍組織浸潤を認めない
2	子宮傍組織浸潤を認める
3	不明

e.腔壁浸潤

code №

1	腔壁浸潤を認めない
2	腔壁浸潤を認める
3	不明

f.腹腔内播種

code №

1	腹腔内播種を認めない
2	腹腔内播種を認める
3	不明

(1) 骨盤腔内に位置していても虫垂、小腸、大網は骨盤外臓器として扱う。

g.膀胱または腸管粘膜浸潤

code №

1	粘膜浸潤を認めない
2	粘膜浸潤を認める
3	不明

2) N分類

FIGO分類改定により、骨盤リンパ節と傍大動脈リンパ節はそれぞれ分けて結果を入力する。

(1) リンパ節郭清とはある領域のリンパ節を、リンパ管を含めて全て切除することである。

(2) リンパ節生検とは転移が疑わしいリンパ節を切除する。または肉眼的に確認できるリンパ節を切除することである。

(3)「センチネルリンパ節生検」とはセンチネルリンパ節生検に留め、陰性あるいは陽性いずれの場合にも郭清を行わなかった場合である。

(i) 初回手術施行例

a. 骨盤リンパ節 (RP)

code №

1	骨盤リンパ節を摘出しなかった（病理学的
---	---------------------

	検索が行われなかった）
2	骨盤リンパ節の選択的郭清（生検）を行った
3	骨盤リンパ節の系統的郭清（すべての領域リンパ節）を行った
4	センチネルリンパ節生検を行った

code №

RP1	骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかつたが、明らかな腫大を認めない
RP2	骨盤リンパ節の病理学的検索が行われなかつたが、明らかな腫大を認める
RP3	骨盤リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない
RP4	骨盤リンパ節を摘出し、転移を認める

b.傍大動脈リンパ節 (RA)

code №

1	傍大動脈リンパ節を摘出しなかった（病理学的検索が行われなかつた）
2	傍大動脈リンパ節の選択的郭清（生検）を行つた
3	傍大動脈リンパ節の系統的郭清（すべての領域リンパ節）を行つた
4	センチネルリンパ節生検を行つた

code №

RA1	傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかつたが、明らかな腫大を認めない
RA2	傍大動脈リンパ節の病理学的検索が行われなかつたが、明らかな腫大を認める
RA3	傍大動脈リンパ節を摘出し、病理学的に転移を認めない
RA4	傍大動脈リンパ節を摘出し、転移を認める

(ii) 初回手術未施行例（画像診断での判定）

a. 計測手段

code №

1	MRI
2	CT
3	PET/CT
4	施行せず

b. 骨盤リンパ節 (NP)

code №

NPX	リンパ節転移を判定するための画像診断が行われなかつたとき
NP0	骨盤リンパ節に転移を認めない
NP1	骨盤リンパ節に転移を認める

(1) リンパ節転移の診断は短径10mm以上をもって腫大とする。短径10mm未満でもPET/CTにおける集積で転移と判断してもよい。

子宮体癌登録実施要項 2026～

c. 傍大動脈リンパ節 (NA)

code №

NAX	リンパ節転移を判定するための画像診断が行われなかったとき
NA0	傍大動脈リンパ節に転移を認めない
NA1	傍大動脈リンパ節に転移を認める

(1) リンパ節転移の診断は短径10mm以上をもって腫大とする。短径10mm未満でもPET/CTにおける集積で転移と判断してもよい。

3) M分類

code №

M0	遠隔転移なし
M1	その他の遠隔転移の存在
M9	遠隔転移の判定不十分なとき

code №

1	腹腔内播種
2	領域外リンパ節転移
3	肺転移
4	肝転移
5	骨転移
6	その他（備考欄2に具体的部位を記載）

【組織診断 WHO分類2020】

1. 組織型

code №

8380/3	類内膜癌
8441/3	漿液性癌
8310/3	明細胞癌
8323/3	混合癌
8020/3	未分化癌
8020-2/3*	脱分化癌
8980/3	癌肉腫
9110/3	中腎腺癌
8070/3	扁平上皮癌
8114/3	粘液性癌, 胃/腸型
9111/3	中腎様腺癌
8240/3	神経内分泌腫瘍グレード1
8249/3	神経内分泌腫瘍グレード2
8041/3	小細胞神経内分泌癌
8013/3	大細胞神経内分泌癌
8045/3	混合型小細胞神経内分泌癌
8013/3	混合型大細胞神経内分泌癌
90	その他
99	採取せず

(1) 脱分化癌と未分化癌のICD-Oコードは共通であるが、施設診断に応じて選択する。

2. 組織学的異型度

code №

1	Grade 1
2	Grade 2
3	Grade 3
4	異型度評価の対象に含まれない
9	不明

3. 脈管侵襲

code №

1	なし
2	あり（限局的(focal)）
3	あり（広範囲(extensive/substantial)）
4	あり（分類不能）

【分子遺伝学的プロファイ尔】

a. POLE変異検査結果

code №

1	あり
2	なし
3	不明

b. POLE変異検査方法

code №

1	サンガーフラ
2	NGS法
3	PCR法
4	その他

c. MMR/MSI検査結果

code №

1	欠損/不安定（dMMR/MSI-H）
2	保持/安定（pMMR/MSS, MSI-L）
3	不明

d. MMR/MSI検査方法

code №

1	MSI検査（PCR法・NGS法）
2	MMR-IHC検査（IHC法）
3	その他

e. p53

code №

1	野生型
2	過剰発現
3	完全陰性
4	不明

f. p53検査方法

code №

1	TP53遺伝子変異検査（サンガーフラ・NGS）
---	-------------------------

子宮体癌登録実施要項 2026～

	法)
2	p53-IHC検査 (IHC法)
3	その他

(1) 複数のバイオマーカー検査を実施した場合には、最終的な根拠とした手法・結果を選択する。

【腹腔洗浄・腹水細胞診】

code №

1	陽性
2	陰性
3	未施行
4	不明

【筋層浸潤の有無】

(i) 初回手術施行例

a. 病理学的診断

code №

1	浸潤なし
2	浸潤<1/2
3	浸潤≥1/2
4	不明

(ii) 初回手術未施行例（画像診断での判定）

a. 計測手段

code №

1	MRI
2	CT
3	PET/CT

b. 画像診断による評価

code №

1	浸潤なし
2	浸潤<1/2
3	浸潤≥1/2
4	不明

【治療開始年月日】

癌に対する手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

【治療法】

1)治療法

code №

11	手術（骨盤・傍大動脈リンパ節郭清を伴う）
12	手術（骨盤リンパ節郭清のみを伴う）
2	手術（リンパ節郭清を伴わない）
3	腔内照射
4	体外照射
51/Ch	化学療法
52/CIm	化学療法+免疫チェックポイント阻害

	剤
53/Im	免疫チェックポイント阻害剤
54/ImMo	免疫チェックポイント阻害剤+分子標的治療
7	ホルモン療法
8	その他の治療
31	同時化学放射線療法（腔内照射）
41	同時化学放射線療法（体外照射）
110	骨盤・傍大動脈リンパ節郭清
120	骨盤リンパ節郭清

(1) いくつかの治療を併用した場合には、施行した順に入力するのを原則とする。

(2) 術前治療施行例の場合は治療を行った順に入力する。

(3) 試験開腹または癌の原発巣を除去する以外の目的の手術（尿管移植、イレウス、尿瘻形成などに対する手術）は入力しない。

(4) 開腹または鏡視下で生検材料のみを採取し、閉腹したものは手術としない。また、子宮内膜全面搔爬で診断を確定しホルモン療法などを行い手術を行わなかった症例は、手術未施行例で登録する。

(5) 手術、放射線療法の補助として、化学療法、ホルモン療法、その他の治療を行ったが、その投与量が明らかに不十分とみなされる場合は治療として入力しない。

(6) 手術の選択（入力コード11および12）にあたってはリンパ節郭清を一期的に行なったか否かご確認下さい。

(7) 二期的にリンパ節郭清を行なった場合は、入力コード110または120を入力する。

(8) 保険未承認治療については、その他の治療（入力コード8）として入力する。

2)手術術式（手術施行例、術前治療施行例）

a. 一回目手術

code №

1	開腹術
2	腹腔鏡手術
3	ロボット手術
9	該当せず

(1) 術中合併症あるいは術中所見に基づいて、開腹施行をしても、予定されていた術式を選択する。

b. 二回目手術

code №

1	開腹術
2	腹腔鏡手術
3	ロボット手術
9	該当せず

(1) 術中合併症あるいは術中所見に基づいて、開腹施行をしても、予定されていた術式を選択する。

子宮体癌登録実施要項 2026～

【備考1】

進行期分類の選択の項目にて「術前治療施行例」を選択した場合にはypTNMとして手術時所見に即してpTNM分類を入力する。

【備考2】

不完全治療、特筆すべきと考えられる事項を入力する。

3年・5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code №

10	生存（非担癌）
11	生存（担癌）
21	子宮体癌による死亡
22	他の癌による死亡
23	癌と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

- (1) 治療後満3年および満5年について生存か否かを入力する。
- (2) 癌による死亡で「子宮体癌による死亡」か「他の癌による死亡」か不明のときは「子宮体癌による死亡」とする。
- (3) 死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「子宮体癌による死亡」とする（「死因不明」にしない）。

【最終生存確認年月日】

code №

1	（西暦年月日入力）
2	不明

- (1) 最終生存確認年月日を西暦で入力する。
- (2) 生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する（退院後行方不明の場合は退院日となる）。
- (3) 死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。

進行期分類

1. 手術進行期分類（日産婦2011、FIGO2008）

I 期	癌が子宮体部に限局するもの
IA 期	癌が子宮筋層 1/2 未満のもの
IB 期	癌が子宮筋層 1/2 以上のもの
II 期	癌が頸部間質に浸潤するが、子宮をこえていないもの*
III 期	癌が子宮外に広がるが、小骨盤腔をこえていないもの、または領域リンパ節へ広がるもの

IIIA 期	子宮漿膜ならびに／あるいは付属器を侵すもの
IIIB 期	腔ならびに／あるいは子宮傍組織へ広がるもの
IIIC 期	骨盤リンパ節ならびに／あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの
IIIC1 期	骨盤リンパ節陽性のもの
IIIC2 期	骨盤リンパ節への転移の有無にかかわらず、傍大動脈リンパ節陽性のもの
IV 期	癌が小骨盤腔をこえているか、明らかに膀胱ならびに／あるいは腸粘膜を侵すもの、ならびに／あるいは遠隔転移のあるもの
IVA 期	膀胱ならびに／あるいは腸粘膜浸潤のあるもの
IVB 期	腹腔内ならびに／あるいは鼠径リンパ節転移を含む遠隔転移のあるもの

*頸管腺浸潤のみはII期ではなくI期とする。

【分類に当たっての注意事項】

- (1) 初回治療として手術がなされなかった症例（放射線や化学療法など）の進行期は、MRI、CTなどの画像診断で日産婦2011進行期分類を用いて推定する。
- (2) 各期とも腺癌の組織学的分化度/異型度を併記する。
- (3) 子宮内膜異型増殖症は日産婦1995分類により0期として登録してきたが、FIGO2008分類に従い0期のカテゴリーを削除する。子宮内膜異型増殖症の登録においては、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会へ別に行う。
- (4) 領域リンパ節とは骨盤リンパ節（閉鎖リンパ節、外腸骨リンパ節、鼠径上リンパ節、内腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節、基靭帯リンパ節）および傍大動脈リンパ節をいう。
- (5) 本分類は手術後分類であるから、従来I期とII期の区別に用いられてきた部位別搔爬などの所見は考慮しない。
- (6) 子宮筋層の厚さは腫瘍浸潤の部位において測定することが望ましい。
- (7) 腹水（洗浄）細胞診陽性は進行期決定には採用しないが、別に記録する。
- (8) IIa期（FIGO1988）であった頸管腺のみに癌がおよぶものはFIGO2008進行期ではI期に分類する。
- (9) Ia期（FIGO1988）（癌が子宮内膜に限局するもの）と筋層浸潤が1/2未満のものをFIGO2008進行期分類ではIA期とし、筋層浸潤が1/2以上のものをIB期としている。
- (10) 混合癌は複数の組織型が種々の割合で混合する腫瘍で、エストロゲン非依存性で従来のII型に相当する漿液性癌か明細胞癌のどちらかを含むものとされる。ただし、いずれの成分も割合や多寡についての設定はない。低異型度の癌から高異型度の癌への進展が考えられている。予後は異型度の高い成分に依存する。

子宮体癌登録実施要項 2026～

(11) 漿液性子宮内膜上皮内癌 (SEIC) はT1の癌として扱う。

＜組織学的異型度 (Grade) ＞

(1) 子宮内膜の類内膜腺癌は高分化型 (G1)、中分化型 (G2)、低分化型 (G3) に分けられる。

Grade 1: 明瞭な腺管構造が大半を占め、充実性胞巣からなる領域が5%以下。

Grade 2: 充実性胞巣からなる領域が5%をこえるが50%以下。または充実性胞巣が5%以下でも核異型が強い場合。

Grade 3: 充実性胞巣からなる領域が50%をこえる。または充実性胞巣が50%以下でも核異型が強い場合。

構造的にG1の定義を満たしても核異型が高度であればG2に、同様にG2はG3になる。

(2) 扁平上皮への分化を伴う場合のGradeは腺癌成分の分化度/異型度によって判定する。

(3) 漿液性癌、明細胞癌、癌肉腫は基本的には高異型度であるため、異型度評価の対象には含まれない。

(4) 神経内分泌腫瘍のグレードは組織型から選択し、組織学的異型度は4 (異型度評価の対象に含まれない)を選択する

		無に関係なく、傍大動脈リンパ節への転移
T4	IVA	膀胱粘膜および/または腸粘膜に浸潤する腫瘍
M1	IVB	遠隔転移

2) N—領域リンパ節

領域リンパ節は、骨盤リンパ節（閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、外腸骨リンパ節、基靭帯リンパ節および仙骨リンパ節）と傍大動脈リンパ節である。

N0	領域リンパ節転移なし
N1	骨盤リンパ節への転移あり
N2	骨盤リンパ節への転移の有無に関係なく、傍大動脈リンパ節への転移あり
NX	領域リンパ節転移の評価が不可能

3) M—遠隔転移

M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり（腔、骨盤漿膜、付属器への転移は除外し、鼠径リンパ節への転移と、傍大動脈リンパ節と骨盤リンパ節以外の腹腔内リンパ節転移を含む）

3. pTNM術後病理組織学的分類

pT、pN、pM分類の内容についてはTNM分類に準ずる。

＜FIGO分類とTNM分類の対応表＞

FIGO分類	TNM分類	
I	T1	N0 M0
IA	T1a	N0 M0
IB	T1b	N0 M0
II	T2	N0 M0
IIIA	T3a	N0 M0
IIIB	T3b	N0 M0
IIIC1	T1, T2, T3	N1 M0
IIIC2	T1, T2, T3	N2 M0
IVA	T4	Nに関係なく M0
IVB	T	Nに関係なく M1

2. TNM分類 (UICC第8版)

1) T—原発腫瘍

TNM分類	FIGO分類	
TX		原発腫瘍が評価が不可能
T0		原発腫瘍を認めないもの
T1	I	子宮体部に限局する腫瘍
T1a	IA	子宮内膜に限局する、または子宮筋層の1/2未満に浸潤する腫瘍
T1b	IB	子宮筋層の1/2以上に浸潤する腫瘍
T2	II	子宮頸部間質に浸潤するが、子宮をこえて進展しない腫瘍
T3	III	下記に特定する局所、および/または領域リンパ節への広がり
T3a	IIIA	子宮体部の漿膜または付属器に浸潤する腫瘍（直接浸潤または転移）
T3b	IIIB	腔または子宮傍組織に浸潤（直接浸潤または転移）
N1/2	IIIC	骨盤リンパ節または傍大動脈リンパ節転移への転移
N1	IIIC1	骨盤リンパ節への転移
N2	IIIC2	骨盤リンパ節への転移の有